



トピックス

「嵐山植林育樹の日」 「嵯峨中学校記念植樹」～京都大阪森林管理事務所～



開会式に参加の中学生のみなさん

大きく育てヤマザクラ

【京都大阪森林管理事務所】2月22日（金）嵐山国有林において、「嵐山植林育樹の日」を開催しました。この「嵐山植林育樹の日」は、名勝「嵐山」で松枯れの拡大によりアカマツが減少するとともに、広葉樹の成長によりヤマザクラが被圧されつつあることから、嵐山の再生に向けて、昭和57年から毎年嵐山保勝会と連携して開催している植樹行事で、今年で32回目となります。

当日は、嵐山保勝会より約30名、嵯峨中学校より生徒会を代表して2年生13名と、宮崎幹也校長をはじめとする3名の教諭が参加しました。来賓として、浅葉嵐山モンキーパークいわたやま園長、深町京都大学准教授、三好京都府立大学助教、磯橋嵐山保勝会副会長、川戸京都林務事務所次長、難波京都市都市計画局風致保全課長、天野京都市産業観光局京の森づくり推進課長にお越し頂きました。当所からは、外山所長ほか8名の職員が運営にあたりました。

開会式では、外山所長から「これまでの皆様方のご協力により植樹を行って頂き感謝申し上げますとともに、引き続き嵐山の景観保全に向けた取り組みを強化したい。」と挨拶がありました。また、嵐山保勝会石川会長からは、



記念植樹に参加された地元のみなさん

「今後も地元関係者の協力の下、継続して嵐山の植林や森林整備に関わっていきたい」旨の挨拶がありました。

来賓紹介に続いて宮崎校長から外山所長に、生徒が国有林内で植栽するヤマザクラ6本の目録授与が行われました。

その後、記念植樹の場所へ移動し、防鹿柵を設置した中において、6本のヤマザクラを大きく育てとの願いをこめて丁寧に土を入れ、しっかり踏み固めながら植えました。

最後に、記念標柱を中心に参加者の記念写真を撮った後、瀧岡流域管理調整官よりお礼の挨拶を述べ植樹行事を終了しました。

企業の森づくりセミナー開催

【計画部 指導普及課】近畿中国森林管理局では、琵琶湖・淀川流域において森づくり活動を実施している企業・団体の交流、意見交換を目的として、企業の森づくり活動の担当者ら約130人が参加し、2月13日（水）KKRホテル大阪にて「企業の森づくりセミナー」を大阪府との共催により開催しました。



午前中は企業や団体が、森づくり活動を実施する上での課題・問題点や成功事例などについて活発な意見交換を行い、企業等から参加者拡大や活動を維持継続するための工夫に力を入れていることや、ユニークな取組の事例紹介があり、最後にそれら各グループ毎に発表を行いました。

午後は、川廷昌弘氏（国連生物多様性の10年日本委員会委員）による『世界とつながる「グリーンウェイブ」のススメ』及び藤田香氏（日経BP環境経営フォーラム生物多様性プロデューサー）による『動き出した、森と木を活かす「グリーンエコノミー」』と題した講演会があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、その後の意見交換では企業の森づくり担当者を交えての活発な意見交換が行われ、参加者は企業が森づくりをする上でのヒントを得ることができました。



熱心に耳を傾ける参加者

『野生鳥獣による森林被害対策に関する事業担当者会議』が開催されました

【計画部 計画課】1月25日（金）林野庁において、都道府県の野生鳥獣対策の関係部局や森林管理局等の事業担当者を対象にした被害対策に関する会議が開催されました。近畿中国森林管理局からは関係課の担当者3名が参加しました。野生鳥獣による被害対策に関して林野庁はじめ農水省、環境省の取組、関連予算の紹介のほか、



鳥獣担当者会議

様々な情報提供がありました。特に、近畿中国地域の関係では、当局の大杉谷国有林二ホンジカ森林被害対策指針検討ワーキングチームの委員でもある森林総合研究所関西支所の高橋裕史氏が「森林用ドロップネット」について、事業体からは、宮川森林組合（三重県）の岡本宏之氏が防護柵（パッチディフェンス）と捕獲（セルフロックスタンション）を組み合わせた新たな取組について報告しました。

最後に、全体を通して活発な意見交換が行われ、捕獲手法からシカ肉の利用まで関心の高さが伺われました。近畿中国森林管理局でも、シカの捕獲など地域と連携した野生鳥獣対策に一層取り組んでいきたいと思います。

※高さ3mの支柱を立て、網（18～24m四方）を吊り上げ遠隔操作で落とし生け捕りにする方法。



パッチディフェンス（三重森林管理署）

官庁公開フェスティバル 2013

【総務部 総務課】2月19日（火）近畿中国森林管理局4階大会議室において、官庁公開フェスティバル2013を開催しました。雪雨等の悪天候にもかかわらず、14名の国家公務員志望者の方にご参加いただきました。

官庁公開フェスティバルは、国家公務員を志望する方に、今後の職場選びの参考としてもらうため、各官庁が職場を公開し、官庁ごとに特色を活かした様々な催しを行う体験型のイベントです。



紹介を熱心に聞く学生

当森林管理局では、①林野庁の組織と各種施策の紹介、②職員との懇談・質疑、③事務室の見学等を企画しました。『林野庁の職場と各種施策の紹介』では、林野庁が推進している「森林の有する多面的機能」の発揮やフォレスター等の人材育成に係る施策、平成25年4月から国有林野事業の一般会計への移行及び林野庁の採用スケジュール等について、事例を示しながら説明を行いました。『職員との懇談・質疑』では、参加者から「林野庁が求める人材」「森林官の業務」「シカなどの獣害対策」などについて多くの質問がありました。また、近畿中国森林管理局の職員による一般職（大卒）の先輩として、採用から現在に到る経歴や体験談に、参加者は熱心に耳を傾けていました。最後に、事務室内を案内し、職員の業務風景を見ていただき、官庁公開フェスティバルを終了しました。

参加いただきました国家公務員志望者の皆様には、公務員試験の難関を突破し、是非、林野庁へ入庁いただければと期待しています。



事務室、業務風景を見学

熊野に春を呼ぶ「お燈まつり」 ～山火事警防を実施～

【和歌山森林管理署】2月6日（水）、新宮市の権現山国有林に隣接する神倉神社において、熊野地方に春を呼ぶと言われ、約1400年前から続く女人禁制の伝統神事「お燈まつり」がおこなわれました。



たいまつを片手に走り抜ける勇壮な男祭り

この祭は「^{あがりこ}上り子」と呼ばれる腰に荒縄を巻いた白装束姿の男衆が家内安全などの願い事を書き入れた大小のたいまつを担いで山頂へ集まり、たいまつに火が付けられ山門の扉が開けられると、雄たけびをあげ538段の石段を火の粉を散らしながら先を競って駆け下りる勇壮な男祭です。

和歌山森林管理署は、毎年山火事警防のために参加しています。今年も6名が背中にジェットシューターを担ぎ、ヘルメットにはヘッドライトを付けた重装備で警備にあたりました。

天候にも恵まれた今年は、冷たい雨に見舞われた昨年より200人以上も多い1921人の「上り子」が歓声を上げて急な石段を駆け下りました。



ジェットシューターを背負って



消火しながらの下山

祭の興奮冷めやらぬ中、私たち職員は地元消防団と共に山火事の原因となる残り火の見落としや参道脇の山林への飛び火などのチェックと念入りな放水作業を行い下山しました。今年も山火事等なく、無事に神事を終えることができました。

寒さになんか負けないぞ！！

～蓮花寺山国有林で森林整備（竹の伐採）～

【兵庫森林管理署】2月9日（土）、蓮花寺山国有林（三木市）において、ボランティアグループ「未来の家」による森林整備活動に、神戸市などから約150人の親子連れが参加し実施されました。

このイベントは、「小さな力でもみんな協力することにより、大きな仕事ができることを子どもたちに感じてもらうこと」を目的にはじまり、今年で8回目を迎えました。

白い息をはいて集まった子どもたちは、『未来の家』と当署が準備したヘルメットをかぶり、鋸を手に緊張した面持ちで開会式に参加しました。

開会式では、『未来の家』足立代表の挨拶の後、神戸首席森林官が国有林の説明と安全作業についての話を行い、年齢に応じた班に分かれて国有林へと移動しました。

このイベントの特徴は、あくまで子どもたちが作業を行い、大人はそのサポートにまわり、各班の指導も、高校生を中心としたリーダーが行い自主性を大切にするということです。

作業の内容は、森林の光環境を改善するために、手鋸によ



一生懸命作業する子供たち

り生い茂った竹を伐採し、隣接する地元の協力を得て田んぼに集積するという作業です。

「倒れるぞ～」大きな声が、国有林の中に響きわたり、皆で協力しながら約2時間の作業を終了しました。着ていた上着をいつのまにか脱いでしまうほど、参加者達は慣れない作業に戸惑いながらも、心地よい汗を流しました。

参加者からは、「初めて鋸を使った。うまく使えたのでうれ

しかった。」「おもったより竹がつるつるして運びにくかった。」「竹が倒れるのを近くで見て、ちょっとびっくりした。」「自分たちでも、自然に対して何かできるんだってことがわかった。」等の感想が聞かれました。

作業の後は、お母さん方が準備した温かい豚汁を食べて元気を回復し、自分たちの作業によりきれいになった国有

林を見ながら達成感を感じつつ笑顔で帰路につきました。

※【ボランティアグループ「未来の家」】

自然、社会、人を尊重し「互いに学ぶ」をテーマに自己の成長を目指す有志で組織されたグループ。小・中・高校生が中心のグループで、未成年会員には保護者の賛助会員が必要。自然保護活動、社会環境整備、奉仕活動、国際交流が事業の中心で、会員が順次成人に達し継続して活動できるグループを目指しています。

『水源の森』ジオラマづくり

～高槻市教員セミナー～

【箕面森林環境保全センター】1月18日（金）、高槻現代劇場 207 号室で高槻市教員セミナー（高槻市教研究発表会 社会科部会）が開催され、京都教育大学 山下宏文教授から「社会科学習の最適化と教材の開発」と題して高槻市内の小学校の先生方を対象に講演が行われました。この講演の中で、社会科における『森林・林業の扱い方』について、近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター作成の森林環境教育手引書（小学校編）と森林環境教育推奨事例集の活用方法について説明していただきました。

具体的な事例として「水源の森ジオラマづくり」を、当センターが担当し指導を行いました。



ジオラマ作りの説明をする職員



熱心に作業する先生方

ジオラマづくりでは、手引書等の関連性などについて説明し、製作に入ると64名の先生方は子どものように熱中して取り組み、各々自分だけの水源の森を仕上げていきました。

「ジオラマづくり、すごく楽しかったです。子どもたちもできたら楽しめると思います」「今日の実習は楽しく森林環境教育の入門としては、子どもたちにとっても興味をもって学習できる内容だと思いました」などの感想があり、好印象を持っていただくことができました。

お知らせ

もり 森林のギャラリー（局庁舎1階）

【3月の展示スケジュール】

3/25～3/30 Twinkle トールペイント作品展【あとえ Twinkle】
2/12～3/31 大津市 びわ湖水源林の間伐材利用 BOX 展示